

様式2 **平成30年度 清瀬市立清瀬第五中学校 学校評価表**

学校教育目標	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動
思索・和敬・剛健	生徒の「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育成する。
目指す学校像(ビジョン)	
【目指す学校像】○生徒にとって楽しく行きがいのある学校 ○保護者にとって親しみがあり、地域に根ざした学校 ○教職員にとって自己研鑽に励み、協力して進める学校 【目指す児童・生徒像】○和敬 思いやりのある人 ○思索 深く静かに考える人 ○剛健 たくましくがまん強い人 【目指す教師像】○常に生徒のことを第一に考える教師 ○生徒のためという同一の視点に立って協力し、体罰を許さぬ教師 ○自己研鑽に励み授業改善に取り組む教師	

前年度までの学校経営上の成果と課題
 「自分は、わからなかったことがわかるようになっていく。」の割合が他の項目に比べると満足度が低い。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、何ができるようになったかを生徒により理解させていく。

柱	具体的方策	自己評価		課題と次年度以降の対策	学校関係者評価	
		評価			評価	コメント
		取組指標	成果指標			
確かな学力の向上	各教科で言語活動(「かわりタイム」等)を意図的に設定し、生徒の主体的・対話的な学習活動を促し、学びを深める。	4	4	生徒アンケートからは「授業は分かりやすい」という問いに3学年92% 2学年85% 1学年92% 全体の90%の生徒が肯定的な回答であった。習熟度別授業では昨年度比では肯定的な回答が増えたが、学年が上がるにつれて肯定的な回答が少なくなっているのは課題である。	4	本校の生徒は、授業時は理解しているようだが、テスト結果を見ると理解度にかなり差があるのがわかる。家庭での学習について、学習の方法やアプローチ法について、指導に加えて欲しい。また、家庭でも定着のさせ方を生徒・保護者と相談するとよい。宿題の一覧などの情報が家庭に知らされるとその一助になる。
	目標(学習めあて)の提示・導入の工夫・めあてと板書内容を使った振り返り	3	3	教員の自己評価は83%が肯定的な回答であった。生徒アンケートでは「自分は分からなかったことが分かるようになっていく」の問いに対し85%の生徒が肯定的な回答をし、昨年度比でわずかに増加している。引き続き、学習のめあてを明確にしたわかる授業を展開していく。		
豊かな心の育成	いじめ調査を定期的実施し、実態を把握する。	3	4	12月現在、2回の調査を実施。年度末までに1~2回の実施を計画する。いじめ調査だけでなく日常の生徒観察に努め、未然防止、早期発見に努めていく。生徒アンケートからは「他の人を大切にしている」の問いに全体の95%の生徒が肯定的な回答をしているので、日常的な指導や取組みが良い効果をもたらしているものととらえ、今後も一層推進していく。	4	本校の生徒は、他の人を思いやる気持ちは育っている。一方で、「いじめ」というよりも、言葉によるいさかいやキレやすい生徒が多いように感じる。また、小学校からの人間関係も大きく変わることが無いので、思い込みから意識が変わらないのは、弊害かもしれない。今後、自己肯定感を高める「自分を大切に」指導も一層必要になるのではないか。
	農園活動や農業体験、赤ちゃんのチカラプロジェクトを「命と人権教育」として実施する。	4	4	「校外活動や修学旅行、農園活動や農業体験、赤ちゃんのチカラプロジェクトなどの体験的な活動は自分の成長に役立っている」の問いに生徒の91%が肯定的な回答をしている。また、「命の大切さ・社会のルールの大切さについて学ぶことがある」という問いに対しても95%の生徒が肯定的な回答をしているので時間の確保をしながら引き続き推進していく。		
健やかな体の育成	オリンピック、パラリンピックなどの外部講師や外部指導員による講演や実技指導の機会を設ける。	4	4	「パラリンピック選手を招いての講演会、道徳授業地区公開講座など、学校外の人の話を聞くことは自分の成長に役立っている」の問いに肯定的な回答をした生徒は全体の91%であった。引き続き、生徒の健やかな心の育成及び豊かな心の育成の為に的確な外部人材の選定に努め活動を推進していく。	4	オリンピック・パラリンピック教育アワード校や道徳授業の取組および地域活動(総合防災訓練)を通じて、「支える」(社会に貢献しようとする意欲や他者を思いやる心)(全ての人が共に助け合い、支え合って生きていく力を身に付ける)力の醸成ができてきた。また、各種活動を通じて、生徒が主体的に行動する機会も増加した。
	セーフティ教室や薬物乱用防止教室を外部講師の招へいや生徒会活動などを通して実施し、生徒の主体性を育てる。	4	4	セーフティ教室や薬物乱用防止教室では、講師からの一方通行的な講義だけでなく、生徒による発表活動を織り交ぜ、生徒たちが主体的に薬物乱用の恐ろしさや乱用防止のための注意喚起を行うなど学習を深めている。今後も準備段階の時間の確保をしながら生徒の活動を進めていく。		
本校の特色①	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業(教師の言葉かけや授業の進め方等)の実施や、教室環境の整備を推進する。	3	3	教員の自己評価は88%が肯定的な回答であった。また、生徒アンケートから「教室、特別教室は安全で清潔な環境になっている」という問いに対し93%の生徒が肯定的な回答をしている。今後一層人的環境・物的環境の整備に努め、快適な環境の維持に努める。	3	教職員、生徒ともに人的・物的環境を整備する意識は、高い。今後一層、授業内容にユニバーサルデザインの視点を取り入れて取り組む。
	全教職員が研究授業を1回以上行う。	3	3	予定していた研究授業は実施できていないが、授業観察を実施。今後可能な限り、研究授業の実施をしていく。		
本校の特色②	ホームページの充実を図るために、毎日のアクセス数700以上を目指す。	4	3	市からの資料ではアクセス数700には及ばなかった。学校評価アンケート(保護者)からは、「学校ホームページ、学校だよりの内容は適切であるか」の問いに対し、全校の86%の方が肯定的な回答を下された。ただし、昨年比では、-8%となったので、原因を探るとともに、保護者の皆様にご満足いただける内容や紙面に工夫をしていきたい。	3	紙ベースの各種「たより」が家庭に届かないことがあるので学校HPに掲載してもらえるとアクセス数がふえるのでないか。特に提出物の情報があると保護者としては助かる。
	道徳授業地区公開講座等の学校行事の共催行事を企画し実施する。	4	4	今年度は例年の青少協との共催行事や道徳授業公開講座をはじめ、1学年「農園活動」では『学校支援本部』の方々のお力添えをいただき学校での取組みの企画や運営をお願いした。今後、オリンピック・パラリンピック教育においても、企画運営に携わっていただく行事もあり、来年度に向けての取組みについても、順次ご協力を依頼していく。		